

講演会（第 75 回例会）

演題：特殊詐欺被害防止について

実施期日：平成 31 年 3 月 28 日（木）

会場：アオッサ 706, 707 号室：

講師：県警本部 生活安全企画課課長補佐 吉田丈晃氏

(株)シャープ・ホームソリューション社北陸支店 嶋田氏

福井県電気商業組合 高間氏

参加者：91 名（内新会員 13 名）

1 特殊詐欺とは

面識のない不特定の人に対して、電話やメール、ハガキなどを用いて、対面せずに相手をだまし、相手の口座に振り込ませたり、宅配便で送付させるなどして、現金やキャッシュカードなどを騙し取る詐欺で、主な手口としては、オレオレ詐欺、架空請求詐欺、還付金詐欺、融資保証金詐欺などがある。

2 被害の状況

平成 30 年には被害認知件数 31 件、被害金額約 1 億 1, 300 万円と、前年度よりかなり減ったが、平成 31 年 2 月末では被害認知件数 3 件で、被害金額も約 6, 200 万円と、依然として極めて深刻な状況です。

3 詐欺の具体的な手口

ア オレオレ詐欺の場合 ほとんどが自宅の固定電話にかかってきます。「オレだけど…」と言うだけでなく、実在する息子・孫の名前を言ったり、娘を名乗ったりする場合もあります。「のどの調子が悪い」とか、「携帯電話をなくしたので」とか言い訳をした上で、「不倫相手を妊娠させ、示談金が必要」とか、「会社の金が入ったカバンを失くした」等と言って現金を振り込むように要求します。

イ 警察官をかたる場合

まずニセ警察官が「詐欺の犯人グループを捕まえた」とか「あなたの口座からお金が引き出されている」とか言って、「後ほど金融庁の者が電話するので対応しなさい」ともつとらしいことを言うので、すぐにニセ金融庁職員から「キャッシュカードを止める必要があるので、暗証番号を教えてほしい。カードは後程別職員が取りに行きます」と電話しておき、その後職員（実は受け子）が自宅にキャッシュカードを取りにくる。

ウ その他電量販店や百貨店を騙る場合もある

先ずニセ店員が「あなたのカードで買い物しようとしている人がいます」と電話し、次いでニセ金融庁職員（警察官）が「カードを止める必要があるので、取りに行きます」と電話した後、「受け子」がキャッシュカードを取りに来る

いずれの場合も、世間話をしながら電話を長引かせ、被害者に相談する時間の余裕を与えないのが特徴である。

(4) 架空請求詐欺の手口

ア 「名義だけ貸して」と要求する場合

ニセの証券会社や建設会社から、有望株を勧められたり入居を勧められたりした場合、断ると名義だけ貸して欲しいと要望される。その後名義貸しは犯罪であり、裁判になると脅かされ、そのトラブル解消のために高額な現金を要求される。

イ 「あなたの個人情報を削除するには、代理人が必要」と要求される場合

ニセ県庁職員から「あなたの個人情報が登録され、削除するには代理人が必要」と云われ、同じニセ県庁職員から「代理人を用意した。あなたの個人番号を教えるが、他人に言わないように」と念を押される。ニセ代理人から「A社の製品を買いたい、個人番号が必要。教えて」と云われ教えると、ニセ監督庁から「個人番号を教えましたね。裁判になります。弁護士費用にお金が必要」などと言われ、高額を請求される。

ウ ハガキ・封書、メール

「料金未納」「連絡なき場合、訴訟に移行」等と不安を煽り、連絡させる。連絡してしまうとコンビニで電子マネーカードを買わせられたり、現金を要求されたりする。この場合は絶対に電話をしたり、応答しないで放っておくことが肝要。

4 対策等

(1) 心構え

「自分は大丈夫」と思わず、いずれ自分にも詐欺の電話があるものとの認識を持つ。

(2) 固定電話対策

- ・ 迷惑電話防止機能付き電話機があるので、これを設置するのも一策である。
- ・ 常時、留守番電話に設定しておくのも一方法。(呼出音は短く)
- ・ 不審な電話には出ないのも一案。

(3) 手口を知る リュウピーネット：不審者出没や振り込め詐欺等、いろいろな犯罪に関する情報を入手すること

(4) ATM利用限度額を予め引き下げておくのも良い

(5) 常日頃から家族や知人と話しあっておくのも良い。

次いでホームソリューション社北陸支店渉外担当部長の嶋田氏が、特殊詐欺被害防止に役立つ電話機を紹介。(1) ナンバーディスプレイ付きなので、番号を見て必要な電話以外に出ないで済む。(2) 電話をかけてきた相手をランプの色で知らせる。青：登録者、赤：未登録者 (3) かけてきた相手を音声で知らせてくれる。(4) 振り込め詐欺対策モードであることを相手に知らせる。(5) 出た後でも自動でメッセージを流し、電話を録音していることを知らせる等、いろいろな方法での詐欺防止の手管を紹介していただいた。以上 大野 記